**立木観音像（重要文化財）**

この千手観音像は、中禅寺の本尊である。伝説によると、中禅寺湖にそびえ立つ菩薩の姿を見て、勝道上人（735～817）が生きたカツラの木から彫ったといわれている。立木とは「立つ木」を意味する。横に突き出た腕は別々に彫られ、背面で胴体と接合されている。高さ6mの像は観音堂に安置されており、日興最古の仏像とされている。

 千手観音は衆生の願いを聞き、祈る者を助けに来ると言われている。その手には魔除けや霊的・肉体的な助けを与える道具が握られている。

**中禅寺**

中禅寺は、784年に勝道上人が創建した天台宗の寺院である。元々は中禅寺湖の北岸にあったが、1902年の足尾台風の際の土砂崩れで寺の大部分が倒壊し、立木観音像が湖に流されてしまった。像は比較的無傷で、湖の南側の歌ヶ浜に漂着しているのが発見された。像が発見された場所の近くに中禅寺が再建された。坂東三十三観音巡礼路の第十八番札所となっている。